

経営改革専門部会の課題

- 強みを伸ばし、足立区らしさを打ち出すための戦略的な施策展開が求められている
 - ・エリアデザイン、大学誘致などは区の強みである。
 - ・強みを伸ばすブランディング戦略が必要。
 - ・コストはかけないが、内外から一目置かれるような施策展開が必要。
- 区民ニーズに応えるために必要な行政機能の維持が求められている
 - ・コンパクトな区政運営は良いが、必要などころには必要な職員数を配置すべき。
 - ・学校統廃合と開発による人口増のミスマッチへの対応など、柔軟性を持った計画の見直しが必要。
- 限られた財源の中で、計画的でメリハリのある財政運営が求められている
 - ・財政状況を踏まえたリアリティのある区づくりが必要。
 - ・最少経費で最大の効果が得られるよう、行政がやるべき分野に資源を投入する。
 - ・支出を抑制するとともに、収納率の向上や担税力のある若者の転入促進などによる歳入増に向けた取組みや負担の公平化などが必要。
 - ・扶助費の抑制は必要だが、様々な困難を抱える区民に対する経済的支援も必要。
- 多様な主体と連携した、新たな協働のあり方が求められている
 - ・区内に大学があることはメリットであり、区の課題解決に向けて協働していくべき。
 - ・大学の研究内容や人材（学生）を活用すべき。
 - ・自助、共助、公助のバランスを踏まえた、区民と行政の役割分担が必要。
 - ・地域や住民からの提案型の協働の仕組みづくりが必要。
- 区のイメージアップと、区内外への発信力の向上が求められている
 - ・シティブロモーションは区の強みである。
 - ・区の広報紙はインパクトがあり、区民にアピールできている。
 - ・若い世代の転入を促進するためにも、発信媒体の工夫や区外への発信力向上が必要。

▼くらし専門部会への提案

- ・支出を抑制するためには、健康寿命の延伸やジェネリックの推進（医療従事者と患者の相互の意識改革）などによる、扶助費の抑制が必要。
- ・扶助費の抑制は必要だが、様々な困難を抱える区民に対する経済的支援も必要。

将来像と基本理念（案）

足立区の将来像（あるべき姿）

- 「住民力」が活きる、区民が誇りを持ち、幸せを感じられるまち
足立らしい魅力と人情味があふれるまちの中で、一人ひとりが力を発揮し、誇りを持って足立区に住み続けることができるまちを目指します。
- 新たな視点や発想を持ち、足立区独自の魅力をつくり、発信していくまち
足立区を支える中小企業や新たな活力を生み出す大学など、多様な主体と協働・連携し、次世代を担う若者世代が定住したくなるような魅力あるまちを目指します。また、他区にはない足立区の魅力をアピールし、国内外から観光客が訪れ、足立ファンが増えるまちを目指します。
- 健全財政のもと、一人ひとりが自立し連帯しているまち
少子高齢化や厳しい財政を乗り越えるため、財源を確保し、一人ひとりが区政を応援することで、ともに未来を築くまちを目指します。

将来像を設定した根本となる考え方（基本理念）

■よりよい明日を目指す わがまち足立

- ・区政も区民も「足立区をよくしたい」という思いは同じです。生まれ育った足立に愛着を持ち、新たに転入してくる人が居場所を見つけ、区内の中小企業や大学をみんなで育てていく。そうして、足立区をふるさとと感じられるひとを増やすまちづくりが重要です。
- ・行政、区民、事業者など、足立区に関わるすべての人が「地域に貢献する」という基準を持って行動する。また、誰もが自分のためだけでなく、誰かのために活動できる。そういう意識を地域で育んでいくことが重要です。

区民あだちサロン及び中高生ワークショップの課題

- 【協働のあり方】・若い世代がリーダーシップをとるべき。
- 【情報共有】・地域に身近な情報を、広報紙などを活用して効果的に発信することが必要。
- 【魅力・ブランド力】・「足立区といえば〇〇」、というものをつくり出すことが必要。
 - ・長期を見据えたブランド力の形成。
- 【行財政運営】・平等な行政サービスを提供することが必要。

区民あだちサロン及び中高生ワークショップの「足立区の将来像」

- 一人ひとりが足立区に誇りを持てるまち
- 足立区に住んでいて「いいね!」と言われるようなまち
- みんなが笑顔で人の輪ができるまち
- 若い世代が自ら行動し、足立区を引っばっていく活気あふれるまち
- 自立心があり、自主性のあるまち ●挑戦し続けるまち
- 自分だけではなく、皆のために動ける人が増えるまち